

総合評価

令和7年度の自己評価結果から、本園では、子ども一人ひとりの発達や気持ちを大切にしながら、安心して生活できる環境づくりに丁寧に取り組んでいることが確認された。特に、乳幼児期における安全管理や情緒的な関わりについて高い意識をもって保育が実践されており、子どもとの信頼関係を基盤とした保育が行われている。

また、遊びや生活を通して主体性を育む保育や、子どもの思いを受け止めながら関わる姿勢についても、職員間で一定の共通理解が図られていることがうかがえる。

一方で、保護者への情報発信、職員研修の充実、関係機関連携等については、更なる向上が必要であることが明らかとなった。今後は、職員間の学び合いや情報共有を深めながら、組織的な保育の質向上に取り組んでいく。

評価傾向

領域	評価傾向
子ども理解・関わり	高評価
乳児保育・安全管理	高評価
主体的な遊びの保障	良好
環境構成	概ね良好
食育・保護者発信	改善余地あり
研修・自己研鑽	課題あり
関係機関連携	課題あり

傾向分析

- 子どもの気持ちに寄り添う保育実践は安定している
- 安全管理や乳児保育に対する意識は高い
- 食育の発信や専門性向上に関する取り組みは継続的改善が必要
- 組織的な学びや連携体制の強化が今後の課題

強み・課題整理

強み

- 子どもの気持ちに寄り添う丁寧な関わり
- 乳児保育における安全配慮
- 絵本・歌・遊びを通した豊かな保育実践
- 子どもの主体性を大切にした環境づくり
- 基本的な保育観の共有

課題

- 食育活動や保育内容の情報発信
- 園内研修・自己研鑽機会の充実
- 関係機関との連携理解
- 実践共有や振り返り体制の強化
- 保護者との情報共有方法の工夫

今後の改善方向

- 園内研修の計画的実施による専門性向上
- 食育活動や保育内容の見える化
- 保護者への情報発信機会の充実
- 関係機関との連携体制強化
- 保育実践の共有と振り返りの定着
- 子どもの主体性をさらに保障する環境構成の工夫

今後も、子ども一人ひとりが安心して自己を発揮できる環境を大切にしながら、保護者・地域との信頼関係を深め、より良い保育の実現を目指していく。